

始事『電気事業』たれた



東京銀座通電燈之設

電氣燈ハ米國人ノ
新發明シテ他ノ火
点スルニ非スシテ一
エレキ器械ヲ以テ火
光ヲ發シ其光明
數十河ノ遠キニ
達シ恰モ白晝ノ
如シ實ニ日月ヲ
除クノ外之ト先ヲ
同スルモナシ

東京電灯は、開業に先だつ
明治十五年十一月一日、大倉
組（銀座二丁目）内の創立仮
事務所前にアメリカのブラッ
シュ商会の技師ポッター氏が
持ってきた二千烛光のアーケ
灯をつけて、電灯の実物宣伝
を行った。上の絵はその時の
光景で、ガス灯はおろか石油
ランプさえ全国に行きわたら
ない頃のこととして、電灯の光
芒に全く肝をつぶし、「世界
で一番明かるいのはお太陽様
その次はお月様、三番目はこ
のアーケ灯だということで、引
きも切らずの人だかり」であ
った。わずか一基の電灯がこ
のように時人の人気をさらつ
たことは、全く隔世の感が深
い。

明治十九年七月五日に開業
し、翌年の一月二十二日、当
時の社交場であった鹿鳴館で
はじめて営業用の白熱電灯を
点けたが、それより少しおく
れて、明治二十三年十一月に、
当ても大衆の歓楽境であった
浅草に五万五千円という莫大
な金をかけて新築された総棟
瓦造りの凌雲閣（通称十二階、
高さ三十六間）のエレベータ